

## 地学フィールドワーク

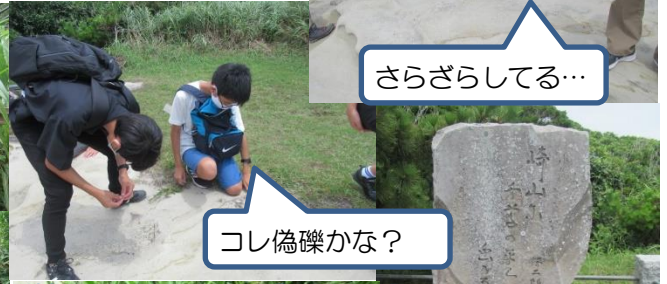
日時：令和4年7月26日（火） 8：00～17：30

場所：勝浦、鴨川方面 参加者：17名

講師：千葉市立千葉高等学校 三坂智樹先生 山田和洋先生



さらざらしてる…



コレ偽礫かな？



三坂先生 山田先生



鵜原理想郷(勝浦)で清澄層の観察をしました。



どうしてこんな地形になったと思いますか？



火災構造といいます！



黒くて固い層だな



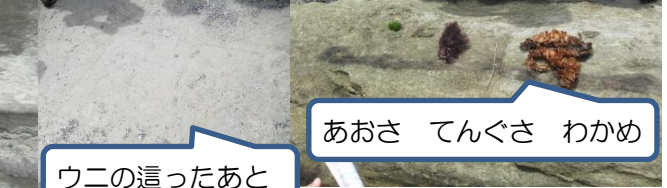
ウコの這ったあと



「鴨川青年の家」で枕状溶岩、八岡海岸で岩石の観察をしました。



枕状溶岩



あおさ てんぐさ わかめ



マントル近くでできた石だよ

### 【受講生の感想】

- 千葉県が色々な石できていると知り、驚きました。地震によって砂と泥は混ざると分かったので、大地震が起きたところは、れきと砂も混ざるのかなと思いました。海ではほとんど全種類の石を見つけることができました。
- 先生が石の出来方などを、例を出しながら説明してくれて分かりやすかったです。また、私たちにも考えさせてくれて勉強になりました。学校で習った知識を使って、石を見つけたり、観察したりするのは面白かったです。
- あまり歩くと思っていなかったのが、想像以上に暑かったりして大変でした。その分、海が見えた時の快放感や、自分で歩くからこそそのものが見えたりして楽しかったです。地学が苦手だったので、少しその意識を変えることができたのでよかったです。
- 今回の講座では、千葉県はプレートの集まる場所に位置しているため珍しい地形があることがよくわかりました。また、後半の鴨川では中学一年生の時に学んだ堆積岩や火成岩を自分たちで探して実際に見たり、触ったりできたので、とてもいい経験になりました。個人的には、以前「プラタモリ」のフォッサマグナの回に出てきていて珍しい地形だと聞いたことのある砂岩泥岩互層を実際に見ることができてうれしかったです。
- 砂泥交岩など様々な面白いことを発見できたが、中でも鵜原理想郷の海岸で拾った海藻の色の違いに興味をそそられた。深海の天草は赤、浅い海でとれるのは緑。地上の植物が緑なのはのりの同種が海に進出したからで、もし赤い藻類だったら、植物の生態と密接するヒトの生態も変わっていたかもしれないと思った。